

国鉄新潟 速報

国鉄労働組合 新潟地方本部
発行 2005年 12月28日
発責 守橋久仁雄 編責 教宣部

12月25日19時14分頃『いなほ14号』が羽越線砂越～北余日間で最上川橋梁通過後に脱線転覆する重大事故が発生しました。

地本執行委員会は12月26日に『事故対策本部』を設置し事故原因の解明に全力を上げる決意です。エリア本部の山根執行委員は、27日に来新し現地の状況などの調査を守橋委員長と行っています。エリア本部は年明け早々、対策本部を設置します。

12/26「事故対策本部」設置
「いなほ14号」脱線転覆

『組合員のみなさんに訴えます』

12月25日19時14分頃、羽越線砂越～北余日間で秋田発新潟行特急「いなほ14号」が最上川橋梁通過後に脱線転覆する重大事故が発生しました。

激しい吹雪のなかで夜を徹して懸命の救出活動が続けられたものの、報道によれば死者5人、32人が重軽傷を負っています。

先般のJR福知山線脱線転覆事故の大惨事を二度と繰り返さないことを、労使の共通の決意として、肝に銘じてきただけに残念でなりません。

国労新潟地方本部は、亡くなられた5人の方々、ご家族に謹んで哀悼の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、負傷された皆様の一日も早い回復をお祈り申し上げます。

今回の事故は、事故当時、強風が吹き荒れ、橋梁を渡りきったところで発生しました。現在、航空・鉄道事故調査委員会が現地に入り、事故原因の調査にあたっています。

「安全な鉄道」を最大の使命とする輸送機関のなかで、一方の労働組合に課せられた役割・任務はたいへん重いものです。国労新潟地方本部は12月26日、地方本部に『事故対策本部』を設置しました。事故再発防止のために労働組合の立場から日々の業務を通して、事故原因を解明する努力は当然必要です。事故調査委員会の結論を待ちつつも、あらためて可能なかぎりの角度から検証しなければなりません。当面、このことを重点に取組を進めたいと考えています。

昨年は中越大地震のうえに、19年ぶりの大雪を経験しました。今冬は、例年になく12月としては記録的な大雪に見舞われ、終日タイヤが乱れています。正常な列車タイヤ確保のため昼夜のご苦労は大変なものがあります。悪条件が重なっていますが、羽越線の一日も早い復旧と安全・安定輸送の確保にむけたご奮闘を要請いたします。

今回の重大な事故によって、JR東日本全体に対する社会的批判は免れません。職場の動揺は否めないと思いますが、より厳しい寒さに向かう折、健康に留意し、平常心をもって業務にあたられるよう願うものです。

2005年12月26日
国鉄労働組合 新潟地方本部
執行委員会